

自民党 県会報告 第203号

9月県議会 定例会 会期 9月20日(火)～10月6日(木)

物価高対策に全力で取り組む

9月定例会は新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で開会され、令和4年度一般会計補正予算や、県政当面の重要な案件について審議し、条例や意見書など28件を可決いたしました。

自民党議員会からは、代表質問1名、一般質問5名、総括質問3名が登壇し、新型コロナウイルス感染症対策や原油価格・物価高騰等対策の取組についていたしました。一般会計補正予算の主な内容については以下の通りです。



令和4年度一般会計補正予算 356億2,000万円

【主な内容】

- **原油価格・物価高騰等への対応(24億6,422万円)**
 - 社会福祉施設等事業者への緊急支援(12億9,201万円)
 - 地域鉄道事業者への運行継続支援(1億4,235万円)
- **新型コロナウイルス感染症対策(117億8,623万円)**
 - 抗原定性検査体制の継続や感染症患者等への支援(15億1,770万円)
 - 宿泊療養施設の確保・運営(59億5,544万円)
- **福島県沖地震への対応(173億7,806万円)**
 - 中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業(162億4,750万円)
 - 阿武隈急行災害復旧事業費補助金(2億4,086万円)
- **令和4年8月大雨被害からの公共土木施設の復旧(3億7,660万円)**

自民党議員会が提出し可決した意見書

- 福島の復興加速化に向けたより確実な対応を求める意見書
- 激甚化・頻発化する大規模災害への対策強化を求める意見書

代表質問(令和4年9月22日)



自民党議員会を代表して、総務会長の**小林昭一議員**(河沼郡選出)が登壇し、代表質問を行いました。

◎今後どのような県政運営を行っていくのか。

△内堀知事

2期目の福島県政をお預かりしてから、間もなく4年が経過しようとしており、「未来は与えられるものでなく、創るもの」、この言葉を胸に、県民の皆さんの力を結集し、先頭に立って、希望の扉を一つ一つ着実に開きながら、輝ける福島の未来を全力で創っていく決意である。

◎カーボンニュートラルの実現に向けた取組をどのように推進していくのか。

△生活環境部長

初期投資なしで自家消費型太陽光発電が導入できるPPA方式を初めて活用し、環境創造センターに県有施設では最大となる太陽光発電設備を導入する。

◎県産品の輸出拡大にどのように取り組んでいくのか。

△観光交流局長

昨年度の県産品の輸出額は、前年度比52%増の13億7,500万円と過去最高となり、今後も県産品の安全性に加え、おいしさや品質の高さなどの魅力を広く発信し、更なる輸出拡大に向け、取り組む。

◎令和4年8月3日からの大雨で被災した公共土木施設の復旧にどのように取り組んでいくのか。

△土木部長

地域住民の安全・安心の確保に向けて、緊急性の高い箇所の復旧を着実に進めるとともに、全ての被災箇所の約8割について年内に着手するなど、早期復旧にしっかりと取り組む。

自民党議員会の活動

各種団体要望聴取会(9月9日、12日)

令和5年度県予算編成に対する要望聴取会を行いました。6つの部会に分かれて、計70団体の皆様から要望を拝聴し、意見交換を行いました。

今回頂いた要望は、各部会で検討し、11月に行う知事申し入れに反映させてまいります。

これからも自民党議員会は、各団体皆様のご要望が実現できるよう努力してまいります。



大雨災害への緊急支援策を要望

8月3日から4日にかけて発生した記録的な大雨の影響により、会津地方を中心に、橋梁の崩落、土砂崩れ、建物への浸水など、甚大な被害が発生しました。

自民党議員会は、8月3日に災害対策本部を設置し、6日に、喜多方市・耶麻郡内の4市町村の被害調査を行うなど、各地の被害状況などの情報収集に努めました。

9日には、内堀雅雄知事に対して、被災した道路や河川の早期復旧などの緊急要望を行いました。

今後も、必要となる施策について、国や県に対して要望してまいります。

